



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 197  
August  
2009

## トピックス

### お知らせ

アジア防災センター  
新所長の就任挨拶

### メンバー国との防災協 力推進

ADRC新メンバー国加盟  
—アゼルバイジャン

### 関係機関との防災協 力推進

第2回センチネルアジ  
アSTEP2・共同プロ  
ジェクトチーム会合  
(JPTM2009)の開催

### ADRCスタッフ紹介 No. 38

藤枝誠主任研究員

Asian Disaster  
Reduction Center  
アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

### ●お知らせ

#### アジア防災センター新所長の就任挨拶

7月14日付けでアジア防災センター(ADRC)所長に就任しました是澤優(これさわあつし)です。一言ご挨拶申し上げます。

日本を含むアジア、約23万人の犠牲者を出した2004年末のインド洋津波災害をはじめ、世界の中で最も災害が多発している地域であり、近年(2000年～2006年)の世界全体に占



めるアジアの災害状況をみると、発生件数で世界の約4割、死者数、被災者数で8割以上、被害額で約4割となっています。災害による犠牲者の大半が低所得国、中所得国に集中しており、急速な人口増加に伴う無秩序な開発や貧困が、さらに災害リスクを高める結果を招いています。

ADRCは、災害が多発するアジア地域において、日本政府ならびにメンバー国、アドバイザー国、兵庫県などの関係機関、有識者の皆様のご理解とご支援をいただきながら、国際防災協力を推進しています。その目的を達成するため、メンバー国の災害情報や優良な取り組み事例の紹介など防災情報の発信・共有を行っており、近年は衛星データを利用した災害情報の共有の試みも行っています。また、メンバー国からの研究員の招聘やメンバー国のニーズに合わせたセミナー・研修の実施などにより防災に関する人材育成にも取り組んでいます。さらに、国際機関やNGO等と連携してコミュニティレベルでの意識の啓発や防災能力の向上を支援しています。

今後とも、ADRCが防災を通じてアジア各国の持続的発展に貢献できるよう、常に質の高い活動を提供していく所存です。引き続き皆様のご支援ならびにご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 【略歴】

昭和63年国土庁(現・国土交通省)入庁。国土庁防災局、内閣府(防災部門)、国土交通省土地・水資源局、都市・地域整備局、大臣官房、国土計画局等において勤務。平成3年～6年：国連人間居住センター(UN-HABITAT)勤務。平成9年～12年：経済開発協力機構(OECD)勤務。

### ●メンバー国との防災協力推進

#### ADRC新メンバー国加盟 —アゼルバイジャン

アゼルバイジャン政府よりADRCメンバー国への加盟申請があり、27のメンバー国からの同意も得られたため、このたびメンバー国として迎え入れることになりました。ADRCはアゼルバイジャンの積極的な参加を得て、より一層充実した活動に取り組んでいく所存です。

## ●関係機関との防災協力推進

### 第2回センチネルアジアSTEP2・共同プロジェクトチーム会合（JPTM2009）の開催

ADRCは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）と協力して、地球観測衛星を利用したアジア地域における災害管理システムの構築を目的に、現在センチネルアジアプロジェクトを実施しています（193&194号参照）。このプロジェクトにおいて、最新の活動情報を共有するため毎年共同プロジェクトチーム会合（JPTM）が設けられ、今年度は2009年7月15日から17日にかけてインドネシア共和国のバリで本会議が開催されました。

今回の会議には、ADRCを含むアジア地域各国の防災機関を中心としたセンチネルアジアプロジェクトに関わる50の組織から117名が出席しました。会議では、衛星の活用に関わる事例紹介と、新たな衛星の有効利用に関する協議が行われました。

ADRCは、発災時における緊急観測に関連する活動と、衛星などの宇宙技術を用いて防災事業を行う国連災害管理・緊急対応のための宇宙情報プラットフォーム（UN-SPIDER）の地域支援事務所設置について報告しました。また、慶応義塾大学、ADRC、そして山岳地の総合的防災事業を行う国際総合山岳開発センター（ICIMOD）と共に、新しく氷河湖決壊洪水（GLOF）ワーキンググループの設置を提案しました。さらに、ADRCはこのワーキンググループの活動のひとつとして、ブータンにおける氷河湖決壊に関するハザードマップ作成と、行政及びコミュニティレベルでの情報共有を目的としたプロジェクトの紹介を行いました。

本プロジェクトの進捗については、今後この紙面でお伝えしていきます。



## ●ADRCスタッフ紹介 No. 38

### 藤枝 誠 主任研究員

今年7月より東電設計株式会社よりADRCに出向している藤枝と申します。これまでは、主に土木地質技術者として、日本をはじめインドネシア、ベトナムなどで、電源開発の調査、建設などの業務に携わるとともに、この10年間はインドネシアやフィリピンで住民主体（参加型）の村落開発にも参加してきました。

防災は私がこれまで携わったことのない新しい分野ですが、災害は地質や地形などの自然条件や、社会条件などに深く関連していると考えます。私のこれまでの経験がいくらかでもお役に立てば幸いです。

ADRCで皆様と働けることは私にとって光栄であるとともに、新たなチャレンジでもありません。微力ながらアジアおよび世界の国々の災害軽減のため少しでもお役に立てるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



## 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。